



イギリスの学校制度

日本各地で桜の便りが聞かれる季節になりました。現事務所は桜の名所、千鳥ヶ淵のそばに在るため、この時期は出勤するのが楽しみです。コロナ禍が始まって早2年。お花見へ行くのも人混みを気にして、なんとも歯がゆい思いをしていましたが、今年是人出もだいぶ戻ってきたように思います。

それにしても、我々はなぜ桜にそこまで魅せられるのでしょうか？ほんのり薄い桃色に謙虚さを、満開から散るまでの早さにはかなさや潔さを、風に花弁が舞い散る様子に移ろいやすさを、盛りを過ぎた枝から次々と芽吹く若葉に次世代への期待を・・・と様々な想いを重ね合わせられる桜は、きっと日本人の精神性に合っているのでしょうか。

せっかくなので、世界各国の国花/象徴する花を調べてみました。(諸説あり)

- * アフガニスタン..... チューリップ
- * イエメン..... コーヒー
- * イスラエル..... オリーブ
- * ウクライナ..... ひまわり
- * エチオピア..... カラー
- * シリア..... バラ
- * スーダン..... ハイビスカス
- * ミャンマー..... 沙羅双樹
- * ロシア..... ひまわり



どの花もみんなきれいで、そこに優劣はありません。花を愛でる気持ちは、世界共通です。世界中の人々が、それぞれ祖国で平和に花を眺め、楽しむことができる日々が、一刻も早く訪れることを願ってやみません。

日本では、春は出会いと別れの季節ですね。皆様の新たなる門出が、希望に満ちたものになりますように。



さて、前回・前々回と続き、今回も外国の学校制度について調べてみました。第三弾はイギリスです！



The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

イギリスは、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの4つの国から構成される連合王国です。そのため、教育制度は国によって微妙に異なります。また公立か私立かによっても異なるため複雑です。ここではイングランドを基準に、一般的な教育制度を記載します。

学校制度	6・5・2・3・4 制
義務教育	5～16 歳 Key Stage 1 > 5～7 歳 / Year1～2 Key Stage 2 > 8～11 歳 / Year3～6 Key Stage 3 > 12～14 歳 / Year7～9 Key Stage 4 > 15～16 歳 / Year10～11 通常 5 歳で小学校に入学。学年を Year で表し、義務教育期間の最後の学年にあたる Year11 に行われる全国統一テスト GCSE の結果で、進学や就職が決まる
学校年度	9 月～翌 7 月
学期制度	3 学期制が多い
学費 (義務教育)	公立：無料 私立：有料

参照元：

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/015/siryo/attach/1374963.htm

<https://tobitate.mext.go.jp/countryguide/uk/>

<https://www.britishcouncil.jp/studyuk> 他

～5歳

保育学校

5～7歳：Year1～2

初等学校（幼児部）

7～11歳：Year3～6

初等学校（下級部）

11～16歳：Year7～11

総合制中等学校

16歳～：Year12～13

シックスフォーム（2年・進学準備）／
継続教育（専門学校）

18歳～

大学／高等教育カレッジ（4年）



義務教育

初等教育（Primary Education）

通常 5～7歳を対象とする前期2年（幼児部）と、7～11歳対象の後期4年（下級部）に区分されるが、一つの学校として併設されているのが一般的です。

中等教育（Secondary Education）

公立は、原則無選抜の総合制学校が一般的で全体の90%がこの形態の学校に在学しています。Year11（16歳）修了の年にGCSEという全国統一試験を受験します。受験科目数は人により異なりますが、大学進学希望者は8～10科目受験するのが一般的です。結果はA～Gまでのグレードによって評価され、大学入学資格（学士過程）に該当するGCE-Aレベルに進むためには、A～Cのグレードが必要になります。

Year11終了後は、進学準備校と職業専門学校とに進路が別れます。



義務教育以降の進路

進学準備校（シックスフォーム）

シックスフォームと呼ばれる過程で、2年間の高等教育を受けます。シックスフォームは、中等学校に設置されている場合と、シックスフォーム・カレッジと呼ばれる独立した学校とあります。大学で自身が希望する専攻に応じて、選択科目をGCSEより少ない3～5科目に絞り、専門的に勉強します。Year13修了の年に、GCE-Aレベルの試験を受け、結果はA～Eの5

段階で評価されます。難関校ほど高いグレードが求められます。これが実質的な大学入試にあたり、イギリス大学・高等教育への総合出願機関（UCAS）を通じて願書を送ります。出願は5校まで可能です。最終的にGCE-Aレベルの試験で、入学条件となるグレードが取れば合格になります。

継続教育（専門学校）

義務教育後の多様な教育を受けられます。青少年や成人に対し、全日制、昼・夜間のパートタイム制などにより、職業教育を中心とする様々な過程が提供されています。日本で言う専門学校に近いです。

大学（University、College）

イギリスには約90の大学がありますが、1校を除き全て国立大学です。ほとんどの大学は3年間で学士号を取得できますが、1年目から専攻科目の学習が始まり、授業内容も厳しいです。そのため、留学生の場合、まず1年間のファウンデーションコース（準備コース）を取得することが一般的です。修士号も1年での取得が可能で、日本と比べて短い期間で済みますが、やはり授業内容が厳しいため、かなりハードな勉強をする必要があります。



日本から留学するには

中学校・高校への留学

私立ボーディングスクール（寄宿学校）への留学が多いです。

大学への留学

上述のとおり、日本の高校を卒業後、すぐ学部入学することは非常に困難なため、まずファウンデーションコースで進学準備をする方が現実的でしょう。ファウンデーション入学時点で、IELTS4.5以上の語学力が必要です。

学部入学にあたっては、最終的にIELTS6.0以上の英語力を求められます。

